

【問い合わせ先】
島根県病害虫防除所 [担当：福間・澤村]
TEL：0853-22-6905
FAX：0853-24-3342

令和5年度 病害虫発生予察情報 注意報第1号

令和5年5月1日
島根県

タマネギべと病が県内各地で発生しており、発病程度の極めて高い圃場が確認されています。現在、タマネギの肥大期に当たり、病勢の急速な進展が懸念されますので注意報を發表します。

現地では発生状況を把握し、発病株の抜き取り、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

記

1. 作物名 タマネギ
2. 病害虫名 べと病
3. 発生地域 県内全域
4. 発生量 やや多い～多い

5. 注意報發表の根拠

- 1) 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率60.0%（平年32.1%）は過去10年で2番目に、発病株数7.8%（平年3.2%）は過去10年で3番目に多かった（図1）。
- 2) 発病程度の高いほ場では、すでに薬剤による防除対策がなされているが、今後さらに感染が拡大する可能性は高い。
- 3) 中国地方1か月予報（4月29日～5月28日、広島地方气象台4月27日発表）によると向こう1か月の気温は平年に比べて高くなる確率が50%、降水量が平年に比べて多くなる確率が40%と、本病の発生にやや助長的である。

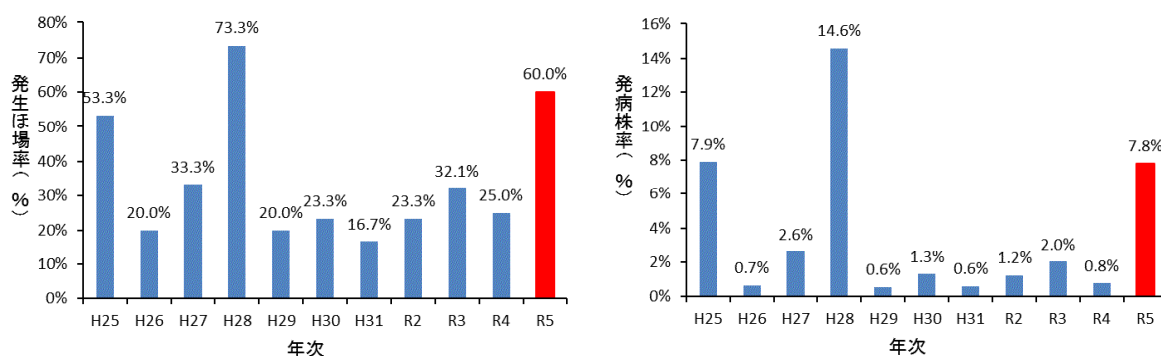


図1 タマネギべと病の発生状況（4月下旬）

6. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) 感染防止のため、薬剤による防除を行う。
- 2) 球の肥大期ごろには抵抗力が急速に低下し、病勢が進みやすい。
- 3) タマネギの生育は平年に比べて早く、薬剤選定の際は収穫前日数に留意する。

7. 薬剤防除

使用の際は同一系統（FRACコード）の薬剤の連用は避ける。

- 1) 種類及び濃度
予防的防除では、FRACコードM1～5、21、29、31等を含む薬剤を使用する。
二次感染株の発生を確認した場合は、FRACコード4、11、40等を含む薬剤で直ちに防除を行う。

- 2) 散布時期及び回数
発生ほ場では、5～7日おきに2回以上散布する。また、未発生ほ場においても7～10日ごとに予防散布を行う。降雨後はできるだけ早く薬剤散布を行う。

3) FRACコードについて

植物病原菌の感受性低下・耐性リスク低減の観点から、FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載した。FRACコードが同じ薬剤は交差耐性を持つ可能性があるため、同一コードの薬剤を連用しないよう心がけること。

なお、FRACコード及び分類表については、農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labomechanism.html>

8. その他

1) 本県におけるタマネギベと病の注意報発表状況（警報の発表は無し）

発表年月日	発表時の状況
平成25年 5月 2日	発生ほ場率53.3%、発病株率7.9%
平成27年 4月 2日	越年罹病株発生ほ場率44.8%、越年罹病株発病株率3.1株/1万株
平成28年 3月30日	越年罹病株発生ほ場率53.3%、越年罹病株発病株率24.3株/1万株
令和 2年 4月 3日	越年罹病株発生ほ場率30.0%、越年罹病株発病株率11.2株/1万株

2) 病害写真



写真1 タマネギベと病発病株